

(別紙様式)

令和7年度 学校自己評価システムシート (県立入間向陽高等学校)

目指す学校像	「ひたむきに、おおらかに、たくましく」未来を生き抜く心身ともに健全な若人の育成
--------	---

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 授業改善及び学習習慣の確立を通じた学習意欲の向上 2 行事等の実践を通じた主権者意識の育成及び自律的・基本的生活習慣の確立 3 生徒一人一人に即した進路選択とその実現 4 保護者参加と中学校・地域との連携強化による協力支援体制の確立
------	---

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。

※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

(A3判横)

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者 5名
	生徒名32名 事務局(教職員 10名)

学 校 自 己 評 価					年度評価 (1 月 8 日 現在)		学校関係者評価		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	実施日	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒達の授業態度は比較的落ち着いた。定期考査前の学習には、大半の生徒がよく取り組んでいるが、日常的な学習習慣はまだ身につけていない生徒も多い。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒が意欲的・主体的に参加できる授業作りと授業改善の工夫が必要である。 生徒の多様な進路希望を念頭に置き、基礎的な知識や思考力の養成が必要である。 科目選択において進路希望と結びつけながら、学習意欲の向上に繋つていく。 	<p>基礎的・基本的事項を重視し深い学びを促す授業改善の取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生徒アンケートの結果を踏まえ、基礎的・基本事項をベースとした生徒たちが考え、対話的で深い学びをめざした授業を模索していく。 1年生で「初期学習指導」を実施し学習への動機付けを行う。また授業での課題の評価、生徒自身による定期考査の自己評価等を行い、学校全体で生徒達の日常的な家庭学習の習慣化を進めていく。 科目選択に関して生徒達が自らの将来の進路と結び付けられるように科目選択ガイダンスを行い、進路行事など進路指導部と連携して生徒の学習意欲向上につなげていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 「初期学習指導」により、学習への動機付けができたか、また生徒自身による課題発見や定期考査の自己評価により、日常的な家庭学習の習慣化を進めることができたか。 科目選択にあたり、生徒達が自分の将来の進路を自覚しながら学習意欲を高めていけるような適切な情報提供と指導を行うことができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 「向陽高校を考慮するための生徒要望アンケート」の結果より、授業の理解度については、「とても理解できる・まあまあ理解できる」が回答の71%であった。昨年よりは若干増加している。また、ICTを積極的に活用した授業が多く展開されるなど、積極的な授業改善が行われている。 新入生に対する「初期学習指導」により、高校での学習の取組方法等の説明を通じて動機付けが図られた。 1・2年生に対する科目選択ガイダンス等により、多くの生徒が自分の進路を意識しながら学習に取り組んでいる。また「生徒アンケート」の科目選択理由を問う質問では、「得意科目である・進路に必要である」という生徒が多少減少しており、「苦手な科目は選択しなかった」という生徒は大幅に減少している。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の意欲および学習状況を踏まえつつ、生徒の主体的な授業参加と学習習慣の確立を図るため、主体的・対話的で深い学びの実現に努めてきたが、なお一層の改善が求められる。併せて、タブレット端末を活用した授業に関しても、研修の充実、教材開発・研究の推進、ならびに指導ノウハウの蓄積を進めていく必要がある。理解度については向上が見られるものの、「あまり理解できない・まったく理解できない」とする生徒が約7%存在しており、当該生徒への丁寧な指導が求められる。 「保護者アンケート」においては、学習習慣が十分に確立していないとする回答が依然として多く、肯定的回答は69%と前年度より減少している。家庭学習習慣の定着を一層促進するため、指導のさらなる充実が必要である。 進路指導部との連携を強化し、科目選択ガイダンス等を通じて、生徒の進路意識と学習意欲を効果的に関連付ける指導を推進していくことが求められる。 	令和 8年 1月 29日	<p>学校関係者からの意見・要望・評価等</p> <ul style="list-style-type: none"> カリキュラムは学年で一緒だがクラスによって、個々でも違う。ターゲットを合わせるの是一对複数。学校は難しい。授業アンケートは記入者が責任を持つ必要がある。対面でみながら聞くのが一番良いのではないし、多種多様な生徒のいる中で見落としを防ぐためには生徒からの働きかけや先生にお願いする努力を引き続いて行っていく必要がある。先生と生徒のコミュニケーションを図ることが大切である。
2	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> 挨拶・礼儀など基本的生活習慣が身につけている生徒がほとんどであるが、一部の生徒においては徹底されていない。 入間向陽高校をよくする会にて、生徒や教職員、地域の方々との課題を共有し、協議を行っている。 生徒要望アンケート、保護者アンケート結果やHR討議を踏まえた生徒の自治的、主体的な活動が職員、PTA、評議員間で共通認識されていない。 修学旅行における平和学習や人権教育を通じ、各教科が協力しながら学習を促している。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 携帯電話使用のマナーを含め、公共性の理解を深め、トラブル防止に取り組んでいく必要がある。 校則で定めている整容の規定を守れない生徒が多くいる。常に変わりゆく時代を正しく理解しながら、生徒と対話的に校則の検討を続ける。 生徒と教職員との意識をすり合わせ、より良い学校をどのように形作っていくか。 生徒の理解度を深めるために、いかに教職員間での連携を密接にしていくか。 「よくする会」での意見表明をもとにした生徒会活動が十分に行えていない。 	<p>生徒一人一人の個性に即した、人間として望ましい資質の伸長の企図</p>	<ul style="list-style-type: none"> 朝の登校指導、授業開始時の巡回を継続していく。 社会生活におけるマナー向上指導の一つとして情報モラル研修会・非行防止研修会を企画し、自己の課題として考えさせる。 教員間の共通理解と協力体制(特に整容指導・挨拶励行、時間厳守について)を確立していく。 定期的な整容指導の実施していく。 生徒会と連携し、教員、生徒間で、校則に対する意見の交換をする機会を設け、意見の交換を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 登校指導、巡回指導が継続的に実施できたか。 公共性へ理解を深め、自己の課題として考えさせる研修会が効果的に実施できたか。 教員間の共通理解のもと、生徒の整容指導への理解、協力体制を確立できたか。 生徒会と連携し、教員、生徒間で、校則に対する意見の交換をする機会を設定し、意見の交換ができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 日々の校門指導、授業開始時の巡回指導は今年度も全教員の協力を得て継続することができた。 情報モラル研修会、非行・薬物乱用防止教室を実施した。 各学年ごとに、教員間で指導の共通理解を深め、協力体制の下での生徒指導ができた。 学期初め、定期考査で整容検査を行った。 「学校をよくする会」を通じて、生徒から校則に関する意見を得た。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶の励行等、社会生活におけるマナー向上を図る指導を継続させていくことが重要である。 SNS関連の問題は、あらゆる場面で引き続き指導していかなくてはならない。多角的な視点から対策を考え続け、生徒のリテラシーの向上に努める。また、非行防止の観点も踏まえ、交通ルールや公共の場でのマナーを中心に自ら主体的に変えていけるような働きかけを検討する必要がある。 学年間だけでなく、学校全体で指導の共通理解を深め、協力体制下での指導ができるよう、教員間で意見交換する場の設定をする。 整容指導時だけでなく、普段の整容が整うための課題を考える必要がある。 「よくする会」では、より具体的で発展的な意見が出てくるのが大切である。今後も生徒会と協力して、継続的に校則の見直しを続けていく。「よくする会」以外でも、教員間や生徒との意見の交換ができるような場を増やせるよう議論を続ける。 生徒会役員、中央委員のみならず、多くの生徒がよくする会への参加ができるような仕組みづくりをしていきたい。 生徒の意見表明を基に、生徒が学校づくりに関わられるようにしていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 前回も協議した行事の異装のルールは納得いくように先生と調整する必要がある。制服のボロボロ着替えや着こなしについては、生徒、保護者、先生も現時点で納得いくようしっかり再検討していくことが課題である。 向陽祭はオープンキャンパスと同様の広報活動であり、現在生徒の6割以上が楽しんでいるとあるが、全校の2/3で満足しないで、全校生徒が楽しい企画となるよう工夫する必要がある。 気候変動で光熱費も上がっている。生徒の声をこの会で完結しないで他校と連携して県に届けたい取り組みも有効である。 この会での意見交換が生徒団体の意見として伝統的に受け継がれ、文化となっている。より良くするために、失敗を恐れず意見を出し、この場に最適な解、納得していく解を求め続けていくことが大切である。 	
3	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> 多様な進路希望を持つ生徒が計画的に進路決定できるように、各担当により様々な進路指導の工夫が実施されている。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 希望進路を実現するために必要な受験に耐える教養と学力の養成が必要である。 変化する受験環境下で求められる、生徒・保護者・教職員間での適切な情報の共有が必要である。 	<p>生徒一人一人を大切にし、その進路実現の支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の習熟度や進路希望先に合わせた多様な講座を開講したり、教職員全体で協力して小論文指導を行う。 生徒には「進路の日」や分野別進路ガイダンスを行い、保護者には保護者説明会や進路だより、教職員には研修会を通じて情報共有を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 進学先未決定者が減少し、就職内定者が増加したか。 進路行事の実施状況と生徒の進路意識が変化したか。 	<ul style="list-style-type: none"> 就職内定率100%を達成し、全員が9月中旬に就職先を決定した。進学においても、総合型や公募型、併願受験などを活用し、多数の生徒が希望する進路実現を達成した。 各学年で実施した分野別ガイダンスにより、生徒の進路意識を高めることができた。また研修会を通じ教員間での現状共有を進めることができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 進学、就職ともに入試手続きや入学手続きでの不備が見受けられた。合格や内定した後もきめ細かなサポートをすることで、確実に入学や入社に繋げるようにしていく。 ガイダンス後も希望する進路先が定まらない生徒が一定数いる。また異なる学年間での情報共有も今後の課題である。次年度への指導や引き継ぎも視野に入れ、日常的な進路指導や情報共有をより一層綿密に行っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 近年の自然環境や社会的風潮の変化を踏まえ、多様な意見が多く寄せられている。これを受けつつ、学校のあり方を柔軟に変化させる一方、生徒側への丁寧な説明を行い、理解を促す必要がある。 授業については、授業レベルよりも授業スタイルそのものに言及する意見が寄せられた。我々教員もこうした声を受けて日々授業改善に取り組む等、虚心坦懐の態度が必要である。 	
4	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> 役員を積極的に引き受けて下さる保護者が少ない。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> PTAの在り方について検討が必要である。 	<p>保護者参加による協力体制の確立</p>	<ul style="list-style-type: none"> PTA予算を何に使うか、PTA活動のあり方などの検討をして、本校の実情に基づいた取り組みができるように、本部・各委員会の計画立案に関わっていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 本部、各委員会の計画立案に対して、各担当者が丁寧に関わることができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> PTAや後援会の在り方、活動内容の整理を求める声があり、話し合いが続いている。すぐに変更できるものではないが話し合いを続け、より良い形になるよう学校と保護者を繋ぐ立場として継続して取り組んでいきたい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 各委員会での活動内容の精選が行えるよう、引き続きの対応が求められる。 PTA・後援会の位置づけや在り方が生徒一人ひとりの健全な育成に協力的で、より良い形で学校との連携が築けるよう助言や調整を行う必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者アンケートからも人間的な成長を大切に、教員と保護者と連携した関係の構築が必要である。 	